

高校入試における英検加点制度の取扱いについて

1 授業等におけるスピーキング力育成

- ・ 授業における生徒のスピーキング機会を増やす。
- ・ 複数のALTが協力し、各学校のスピーキングテストの回数を増やす。
- ・ 生徒がALTと気軽に会話できる英会話カフェ等を設ける。
- ・ ICT機器等を活用し、生徒が自主的にスピーキングの練習ができる環境や教材等を検討する。

2 外部検定の受験料補助(中3:1回無料)を継続

- ・ グローバル化が進む中、英語のスピーキング力の重要性は否定できず、また、英検加点入試により、英語に興味を持つ生徒が増え、学習意欲が高まった面もある。
- ・ GTEC や英検の結果を分析し、中高の継続的な英語指導に生かす。

3 現中学2年生から現行の英検加点を廃止

- ・ 4技能(聞く、読む、話す、書く)の中の「話す」力を高校入試で評価するため英検加点を導入したが、加点の合否への影響はほとんどみられなかった。また、「話す」力と他の3技能の相関がみられることがわかった。
- ・ 将来的なスピーキングテストの導入に向け、民間事業者によるスピーキング試行テストを2回実施した。その結果、周りへの音漏れなどの問題はほぼ解決したが、コストや採点期間(約2か月)等に未だ課題がある。
- ・ 東京都では、高校入試においてスピーキングテストが導入(令和4年度～)されるが、東京都の導入状況、課題や他県の状況等を分析して、慎重に導入すべきと考えている。
- ・ 英検取得は、他の検定試験や部活動の活躍と同じく、調査書の総合所見の欄に記入する。